

下水道分野における芦屋町との広域連携について（報告）

上下水道局は、平成 19 年度の芦屋町の水道事業統合を機に同町との交流を深めてきた。

芦屋町は、下水道事業における技術職員不足や使用料収入の減少などの課題が顕在化しつつあることから、水道事業に続き、下水道事業においても本市との連携を検討している。

連携中枢都市である北九州市として、これまで芦屋町と下水道分野の情報交換を行っており、今後は課題解決に向けた連携協議を本格化する。

1 国が考える広域化・共同化の必要性

- ・全国的に、下水道事業は施設の老朽化、技術職員減少や使用料収入の減少といった課題を有しており、従来通りの事業運営では持続的な事業の執行が困難になりつつある
- ・良好な事業運営を継続するには、執行体制の確保や経営改善などの取組が必要
- ・スケールメリットを生かした効率的な管理が可能な広域化・共同化は有効な手法の一つ

2 芦屋町との上下水道の連携について

- ・北九州市は、平成 19 年度から芦屋町の水道事業を統合
- ・北九州市は、平成 27 年、福岡県北東部（宣言当時 17 市町）の中核都市として、連携中枢都市圏「北九州都市圏域」を形成することを宣言
- ・この宣言を受け、平成 28 年には芦屋町と連携協約を締結し、「上下水道分野の広域連携に向けた検討を行う」ことを明記
- ・芦屋町は、平成 29 年度から下水道事業について、本市との連携や町単独での継続運営など将来的なあり方を検討し、本市と連携することが維持管理や経営面で有利になると判断

3 今後の取り組みについて

国の方針や「芦屋町との連携協約」に基づき、双方の広域連携のメリットやデメリットを整理のうえ、持続可能な事業運営の仕組みづくりを検討する。